

B 114 へらじるしの強さと和服地との関連 (第2報)

へこみ率に関係する若干の要因について

相模女子大家政 ○永井寿子 実践女子大家政 平山順之

目的 私たちは従来判断が困難であったへらじるしの強弱の程度について客観的基準を得ることを検討してきた。前報において、へら圧、布の種類、下敷などのちがいによるへこみを定量的にとり文物性との関連を検討し、更に実際面からへらじるしの強弱の程度について和服裁縫技術専門家による主観的判断基準として官能量をとらえた。

その結果、へこみ率と官能量との間に高い相関が認められ、これより好ましいへらじるしの強弱の程度はへこみ率であらわせることを報告した。

今回は重ね枚数とへこみ率の関係、へこみ率の経時変化について検討したので報告する。

方法 へらじるしは前回同様特別に作った自働へらつけ番によった。へら圧、布の種類、および触針法によるへこみ量測定なども前回と同様である。

まず重ね枚数は、4枚重ね、3枚重ね、2枚重ねとし、それぞれの重ね枚数における上から1枚目、2枚目、3枚目、4枚目のへこみ率を検討した。次にへこみ率の経時変化については、へらじるし直後、1日目、2日目、5日目、10日目をとらえた。

結果 重ね枚数によるへこみ率は、4枚重ねの1枚目<3枚重ねの1枚目<2枚重ねの1枚目という結果であった。2枚目、3枚目についても同様であった。

へこみ率の経時変化は、へらじるし直後から1日目が最も大きく、5日目以降は次第に小さくなる傾向であった。